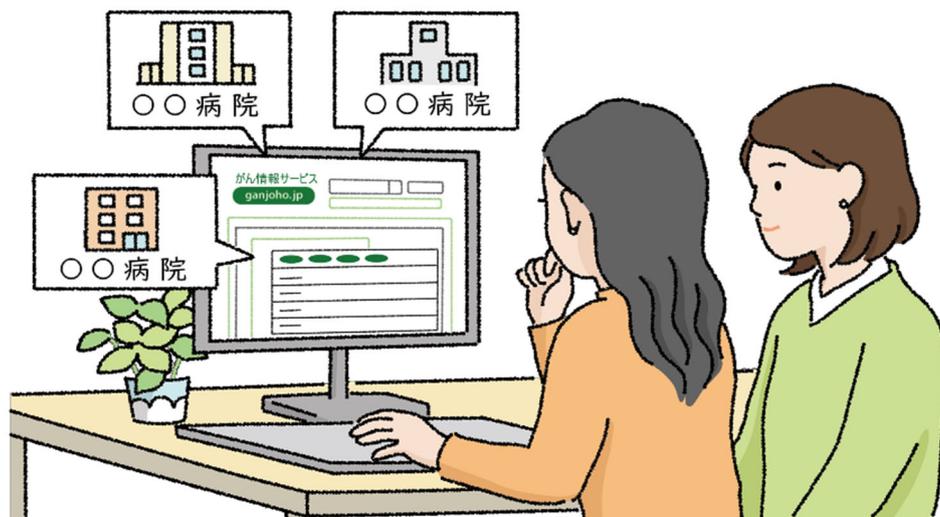


がんの疑いがある または がんと診断された皆さまへ

病院選び あんしんガイド



● 目次

I. はじめに	1
II. 病院を選ぶポイント.....	2
・ 診療の体制	
・ 医師以外の専門職のサポート体制	
・ 病院の種類	
・ 病院への通いやすさ	
・ その他の注意点「	
III. 病院の探し方	5
・ ウェブサイト：がん情報サービス「相談先・病院を探す」で探す	
・ 都道府県（地域）のがん情報の冊子・ウェブサイトで調べる	
・ がんの種類や治療実績で探す	
・ 病院のウェブサイトを確認する	
・ がんを診断した医師やかかりつけ医に相談する	
・ 近くのがん相談支援センターに相談する	
IV. よくあるQ&A	8
Q.1 がんの治療は、がんセンターで受けた方がいいですか？	
Q.2 近くに拠点病院が複数あるときは、どうしたらいいですか？	
Q.3 近くに拠点病院がないときは、どうしたらいいですか？	
Q.4 希少がんの病院選びのポイントがあれば、教えてください。	
Q.5 持病がある場合の病院選びのポイントがあれば、教えてください。	
Q.6 ひとり暮らしの高齢者で病院選びのポイントがあれば、教えてください。	
Q.7 治療費は病院によって違いますか？	
Q.8 治療が始まっていますが、病院を変えることはできますか？	
Q.9 先進医療は、どこの病院で受けられますか？	
Q.10 どこの病院が治療成績（生存率）がいいか、知る方法はありますか？	
V. 病院を選んだあとは（病院のかかり方）	12
・ 診療情報提供書（紹介状）・検査結果（データ）の準備／初診の予約	
・ 医療者とのよい関係の築き方 ～納得できる治療・療養のために～	
本ガイドで紹介しているウェブページとQRコード	13

I. はじめに

このガイドを読んでいる皆さまは、がんまたはがんの疑いがあると言われて、不安な気持ちを抱えているのではないのでしょうか。がんと聞けば、誰でも、落ち込んだり混乱したり、気持ちが不安定になりやすいものです。一般的には2週間ほど経過すると、気持ちが落ち着いてくると言われています。気持ちが落ち着いてきたら、どこの病院で治療を受けるかを考えていきましょう。

わが国では治療を受ける病院を自由に選ぶことができます。しかし、いざ治療を受ける病院を決めようとするとならぬ方が少なくありません。治療の実績、適切な治療や支援が受けられるか、病院の通いやすさなどが、病院を選ぶときの一般的な基準と言われています。確かな情報を入手し、納得した病院選びができれば、前向きに治療に臨むことができます。

がんと診断されたあと、治療する病院を短期間で選ばなければならないことも少なくありません。病院選びに悩んだら、お一人で悩まないで、がんを診断した医師やかかりつけ医、全国にある「がん相談支援センター」*などに相談しましょう。自分の状況や希望を伝えることで、病院を選ぶためのヒントを得られるでしょう。なお、**がんかもしれない症状があるときは、まずかかりつけ医や近くの内科・外科などのクリニック、地域の病院を受診してください。最初の段階から、がんセンターなどの大きな病院を受診する必要はありません。**

*がん相談支援センターについては、Ⅲ章「近くのがん相談支援センターに相談する」(P7)をご覧ください。

—本ガイドの対象や使い方—

この“病院選び あんしんガイド”は、がんの疑いがあるまたはがんと診断された方に向けて作りました。本ガイドは、希少がんや小児がんなど、一部のがんの人には当てはまらない場合もあります*。本ガイドに書かれていることの全てを守らなければならない、病院を選ぶポイントを全て満たさなければならない、というものでもありません。病院選びの参考としてご活用いただき、納得して病院を選ぶ手助けになればと願っています。

*希少がん（患者さんの人数が少ないがん）の方は、Ⅳ章 Q.4 (P9)をご覧ください。

Ⅱ. 病院を選ぶポイント

病院を選ぶときは、いくつかのポイントを確認し、総合的に判断することが大切です。このⅡ章では、病院を選ぶポイントを紹介しています。

● 診療の体制

わが国のがん治療は、診療ガイドラインに掲載され、有効性と安全性が確認され保険適用になっている「標準治療」が一般的に薦められるため、治療方針に大きな違いがありません^{*1}。候補となる病院があるときは、疑われたり診断されたがんに関連した部位の**診療科**があるか^{*2}、そして**治療実績**はどうか、**専門医や認定医**^{*3}はいるか、**治療の設備**は整っているかといった情報を確認してみましょう。最近のがん治療は、手術や薬物療法、放射線治療を組み合わせでおこないます。それぞれの診療科（外科、内科、放射線治療科など）の情報は、各病院のウェブサイトで入手できます。持病がある方は、Ⅳ章 Q.1（P8）・Q.5（P10）をご覧ください。

*1 診療ガイドラインや標準治療は、[がん情報サービス「標準治療と診療ガイドライン」](#)をご覧ください。

*2 どの診療科で診てもらえばよいかわからない場合には、病院のウェブサイトの確認や近くのがん相談支援センターへの相談をおこなってください。

*3 専門医や認定医は、高度な知識・技術、実績を有するとして、各学会により認定された医師のことです。

● 医師以外の専門職のサポート体制

がんの治療では、医師だけでなく、薬剤師、看護師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、管理栄養士などのさまざまな専門職がチームとして治療や生活を支えています。例えば、薬の飲み方の指導や副作用の情報は薬剤師、体調の確認や副作用の観察・ケアは看護師、仕事やお金のことは医療ソーシャルワーカーがサポートします。がんの専門資格をもった薬剤師や看護師がいるかなど、医師以外の専門職による支援が受けられる体制であるかどうかも確認してみましょう。現在は医師だけでなく、チームであなただのがん治療や療養を支える時代に変化しています。不安なことや気になることがあれば、医師以外の専門職にも積極的に相談していきましょう。



● 病院の種類（がん診療連携拠点病院等）

全国どこでも質の高いがん医療を受けられるように、厚生労働大臣が指定した施設を「がん診療連携拠点病院等（以下、拠点病院）」とといいます。拠点病院には都道府県がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、特定領域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院が含まれ、複数の市町村で構成されたがん医療圏に概ね1カ所ずつ整備されています。拠点病院では治療実績、人員の配置、チーム医療の体制、がん相談支援センターの設置*、複数の専門職が参加し治療方針等を検討する会議（カンサーボード）の開催といった厳しい基準が設けられており、診療の体制や専門職のサポート体制が充実しています。なお、拠点病院以外にも質の高いがん医療を提供している施設は多くあります。候補の病院が複数ある場合は、病院ウェブサイトを確認してみるとよいでしょう。また、一部の希少がん（患者さんの人数が少ないがん）では治療実績の多い特定の病院が薦められる場合もありますので、IV章 Q.4（P9）をご覧ください。

*がん相談支援センターについては、III章「近くのがん相談支援センターに相談する」（P7）をご覧ください。

● 病院への通いやすさ

がん治療は長期にわたることが多く、病院選びは生活に大きく影響します。最近では、薬物療法や放射線治療などを通院でおこなうことも多くなっています。交通手段や通院時間、費用、体調がすぐれない場合の通院手段も考慮しておくといよいでしょう。また、治療後5～10年間は、定期的な通院が続くこともあります。付き添いや病院の送り迎えなど、家族や友人の協力が必要となる場合もありますので、あらかじめ身近な方とも相談しておけるとよいでしょう。

- その他の注意点

- 待機期間

一般的に大きな病院になればなるほど、受診を申し込んでからの初診や治療までに時間がかかる傾向があります。待機期間は、がんの種類や病院の体制、治療の内容によっても異なります。多くの場合、初診の予約は1日～1週間、治療の開始は早い場合で1～2週間、遅い場合で2～3カ月くらい待つこともあります。待機期間は病院のウェブサイトで公開されていることもありますので、確認してみましょう。また、その病院にがん相談支援センターがある場合は、待機期間を尋ねることもできます。受診や治療の待機期間にがんが進行してしまうのではと不安になる方がいらっしゃいます。多くのがんでは数か月で急激にがんが進行することは少ないと考えられていますが、不安な気持ちがある場合には担当医に思いを伝えてみましょう。治療を急いだ方がいい病状である場合には、担当医からその旨の説明があります。治療までの待機期間は、体調を整えて治療に臨む大切な準備期間ととらえ、心身の健康に努められるとよいでしょう。

- 親戚や友人からの評判、インターネットなどの口コミには慎重に対応を

最近では、親戚や友人からの評判、インターネットの口コミなども、病院を選ぶときの情報源となることもあるようです。外来の待ち時間や病院の設備などの客観的情報は参考にできることもありますが、個人的また主観的な評判・口コミは注意が必要です。情報の発信元はいち個人なのか、どのような目的の発信か、どのような調査に基づくものかによっても、信用度が変わります。また、がんの治療は、がんの種類やステージ、患者さん本人の状況や意向によっても異なります。[がん情報サ](#)
[ービス「情報を探するときのポイントとは」](#)をご覧ください、評判や口コミだけで決めることなく、がん相談支援センターに相談してみるなど、ご自身で確かめてから判断しましょう。

- 自費で高額な医療を提供する病院・クリニックに注意

がん治療では科学的に効果が証明された現時点の最良・最高の治療が「標準治療」として認められ、ほとんどの治療は保険診療で提供されます。ところが、いくつかの病院やクリニックでは、科学的に効果が証明されていない治療を高額な自由診療として提供している現状があります。このような病院やクリニックでは、がん患者さんや家族の不安な心理を利用して、副作用がない（少ない）・がんが消える（治る）などの巧みな言葉で誘惑します。インターネットに、科学的な根拠や高い効果があるように見せかけた情報が掲載されていることもあります。高額なお金を請求されるだけでなく、標準治療を始めとする最適な治療を受ける機会が奪われることもありますので、十分にご注意ください。

Ⅲ. 病院の探し方

このⅢ章では、実際の病院の探し方をご紹介します。信頼できる身近な方と一緒に探してみましよう。

- ウェブサイト：がん情報サービス「病院を探す」で探す

厚生労働大臣が指定したがん診療拠点病院等（以下、拠点病院）は、[がん情報サービス「相談先・病院を探す」](#)で探すことができます。病名もしくはお住まいの地域から探すことができます。がん情報サービスの各施設のページには、所在地やホームページアドレスなどの基本情報だけでなく、がんの診療状況や専門医などの診療体制、医師をはじめとした専門職のサポート体制が掲載されています。

<がん情報サービス「相談先・病院を探す」の探し方（スマートフォン）>



- 都道府県（地域）のがん情報の冊子・ウェブサイトで調べる

お住まいの地域の拠点病院や都道府県が独自に指定している協力病院や推進病院*などの情報は、各都道府県のウェブサイトや療養情報の冊子で調べることができます。また、これらの情報は、[がん情報サービス「地域のがん情報」](#)からでも検索できます。冊子やウェブサイトに掲載されている病院情報や内容は都道府県により異なりますが、地域の特性に応じたものとなっていることが多いので、参考にするとういでしょう。

* 都道府県が独自に指定している協力病院や推進病院がない都道府県もあります。

● がんの種類や治療実績で探す

がんの種類や治療実績を知りたい場合は、[がん情報サービス がん統計 データセンター「院内がん登録 全国集計 結果閲覧システム 施設別検索」](#)で調べることができます。がんの種類（部位）や都道府県を選択し、検索してみてください。ただし、次の点にご留意ください。

- ・ 登録数（実績）は、病院間の優劣をつけるものではありません。
- ・ 登録された施設は、拠点病院をはじめとする一部の病院です。
- ・ 集計に時間がかかるため数年前のデータであり、今の状況とは異なる場合があります。

また、一部のがん相談支援センターでは施設別がん登録件数検索システムを用いて、診療数のより細かい情報が得られることがあります。施設別がん登録件数検索システムの導入施設は、[がん情報サービス「がん種別の診療数で病院を探してもらおう」](#)で確認できます。

● 病院のウェブサイトを確認する

候補の病院がいくつかあがったら、病院のウェブサイトも確認してみましょう。病院の特徴や力を入れていること、雰囲気などがわかります。また病院のウェブサイトには診療科ごとのページがあり、どの診療科でどの病気を診てもらえるか確認することができます。病院のウェブサイトでは、次のことも確認するとよいでしょう。

- ・ 病院へのアクセス（最寄り駅、車でのアクセス、駐車場の有無・駐車料金など）
- ・ 診療の体制（診療科、担当医の情報、治療設備や治療法、外来日、待機日数など）
- ・ 医師以外の専門職のサポート体制
（専門資格をもった薬剤師や看護師、がん相談支援センターなど）
- ・ 初診までの流れ
- ・ 入院時の個室の情報（特別療養環境室料；通称差額ベッド代）

● がんを診断した医師やかかりつけ医に相談する

がんを診断した医師やかかりつけ医に、どこの病院がいいかを相談してみるのも一つです。検診センターやクリニックの医師は、地域の病院の詳しい情報をもっています。紹介ルートが整っていることが多く、受診までの流れがスムーズです。自宅や勤務地、候補となる病院への通院歴など、自分の状況や希望を伝えて、がんを診断した医師やかかりつけ医と相談して決めていくこともよいでしょう。また、候補となる病院のどの診療科に診てもらえばいいかがわからない場合も、確認してみるとよいでしょう。

- 近くのがん相談支援センターに相談する

がん相談支援センターでは、地域の病院情報を入手したり、病院の選び方を相談できます。また、がん情報サービス、各都道府県が提供しているがん情報のウェブサイトや冊子の使い方なども説明してくれます。がん相談支援センターでは原則として特定の病院を薦めることはしませんが、自分の状況や希望を伝えれば、病院を選ぶためのヒントが得られるでしょう。また、病院選びの相談だけでなく、病院のどの診療科を受診したらいいか、予約の取り方がわからないといった相談もできます。がん相談支援センターは全国約450か所にある拠点病院に設置され、お近くのがん相談支援センターは[がん情報サービス 相談先・病院を探す「お住まいの地域から探す」](#)で探すことができます。がん相談支援センターはその病院に受診していなくても、誰でも無料で匿名で相談できます。その病院を今後受診したり、転院しないといけないということもありません。また、[がん情報サービス「がん情報サービスサポートセンターのご案内」](#)でも、お近くのがん相談支援センターの紹介が可能です。

【がん情報サービス  サポートセンター】

- がん電話相談

0570-02-3410 / 03-6706-7797

平日 10時～15時（土日祝日、年末年始を除く）

相談は無料ですが、通話料金のご利用される方のご負担になります。海外発信の電話は受けられません。



IV. よくあるQ&A

このIV章では、病院を選ぶときのよくあるQ&Aをご紹介します。[II章 病院を選ぶ際のポイント]とあわせて、病院を選ぶ際の参考にしてください。

Q.1 がんの治療は、がんセンターで受けた方がいいですか？

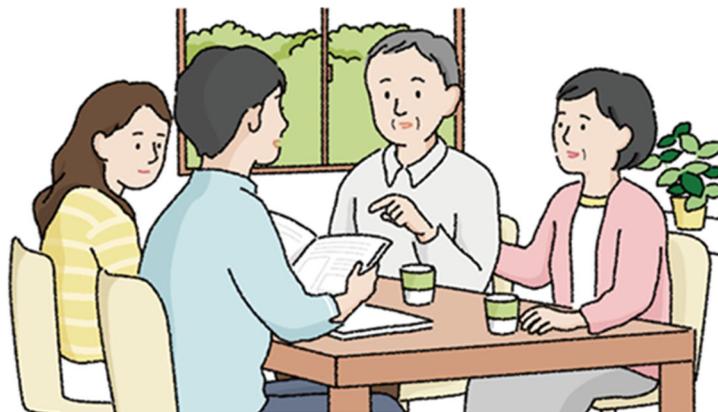
A.

がんセンターや大学病院はもちろん、地域の総合病院でも、がん診療連携拠点病院等（以下、拠点病院）であれば「標準治療」を受けることができます。「標準治療」は有効性と安全性が確認され、専門家によって「最適」と考えられた治療法です。そのため拠点病院であれば、同じ治療方針が提案されることが多いです。がんセンターでは、専門医・認定医、専門・認定薬剤師や専門・認定看護師などがたくさん在籍しています。一方で、がん以外の病気（糖尿病、心臓や腎臓など）を専門とする医師が少なく、体制が不十分な場合があります。持病のある方は、がんセンターではなく、大学病院や総合病院、かかりつけの病院で治療を受けることを薦められることもあります。

Q.2 近くに拠点病院が複数あるときは、どうしたらいいですか？

A.

拠点病院であれば、専門的ながん医療の提供体制が整っており、がんの治療や生活について情報提供を受けたり、相談できたりする体制も整っています。ご自身にとってのメリットとデメリットを並べて、身近な方とも相談しながら、決めていくとよいでしょう。中には、院内の雰囲気や病院へのアクセス、お問い合わせした印象で最終的に決める人もいます。



Q.3 近くに拠点病院がないときは、どうしたらいいですか？

A.

拠点病院以外にも、都道府県が独自の基準を設けて、がん治療をおこなう病院として指定している場合があります。まず都道府県が指定した病院があるかを確認しましょう*¹。また、治療実績を報告する院内がん登録の制度に参加するなど、がん治療に力を入れている施設もあります。院内がん登録に参加している施設や施設の実績は、[がん情報サービス がん統計 データセンター「院内がん登録 全国集計 結果閲覧システム 施設別検索」](#)で確認できます。希少がんを除いて、年間で数十件程度の実績があれば、「標準治療」を受けられることが多いです。今の治療法でよいか、他の選択肢はないかを聞いてみたいときには、拠点病院の医師にセカンドオピニオン*²することもできます。住み慣れた地域の病院で、がん治療を受ける方も大勢いらっしゃいます。お近くのがん相談支援センターでは、地域でがん治療をおこなう拠点病院以外の病院を紹介してもらうこともできますので、ご利用ください。

*1 確認方法は、Ⅲ章「都道府県（地域）のがん情報の冊子・ウェブサイト調べ」（P5）をご覧ください。

*2 セカンドオピニオンは、現在治療を受けている担当医とは別の違う医療機関の医師に、診断や治療についての意見を聞くことです。詳しくは、[がん情報サービス「セカンドオピニオン」](#)をご覧ください。

Q.4 希少がんの病院選びのポイントがあれば、教えてください。

A.

希少がんと診断された場合、情報量が限られ、ご心配が募ることも多いと思います。希少がんの診療では専門医のいる病院に限られ、どこの病院でも同じように治療実績があるわけではありません。実績のある病院が近所にはない場合には、遠方の病院も考慮に入れましょう。希少がんの治療実績や治療法は、希少がんホットラインで情報を得ることができます。

●希少がんの相談窓口（希少がんホットライン）（2024年4月1日時点）

- [国立がん研究センター中央病院 患者サポートセンター 希少がんホットライン](#)
- [東北大学病院 がん診療相談室 希少がんホットライン](#)
- [名古屋大学医学部附属病院 希少がんセンター 希少がんホットライン](#)
- [大阪国際がんセンター 希少がんセンター 希少がんホットライン](#)
- [岡山大学病院 希少がんセンター 希少がんホットライン](#)
- [九州大学病院 希少がんセンター 希少がんホットライン](#)

Q.5 持病がある場合の病院選びのポイントがあれば、教えてください。

A.

他の病気を抱えながら、がんと診断されることも少なくありません。抱えている病気の種類や程度によっては、専門的に対応できる医療者や設備が整っていないこともあり、がんセンターでは受け入れが困難な場合があります。また、持病に気を付けながらがん治療をおこなう必要があるため、かかりつけの病院でがん治療をおこなうことが、その方にとって最善であることも多いです。かかりつけの医師に、がんと診断されたことを伝え、どこの病院で治療を受けることがよいか相談してみましょう。

Q.6 ひとり暮らしの高齢者で病院選びのポイントがあれば、教えてください。

A.

高齢化や核家族化が進み、ひとり暮らしの高齢者ががんと診断されることも珍しくなくなってきました。日本ではがん対策がすすみ、遠方の病院に行かなくても、かかりつけの病院で継続して治療できることが多いです。まずはかかりつけ医やがんを診断した医師に相談してみましょう。がんの治療が始まると通院回数が増えます。高齢者の場合は、特に病院への通いやすさが大切です。住み慣れた地域を離れて、家族や親戚が生活する先で支援を受けながら治療する方もいます。家族や親戚がいない場合や住み慣れた地域で治療を受けると決めた場合でも、別居する家族や親族、知人、公的支援（介護保険や地域包括支援センターなど）、近所の人をサポートを利用しながら、治療や療養の体制を整えることができると安心です。受診先では、一人暮らしであることを医療者に伝える、がん相談支援センターを活用するなどして、治療を進めていけるとよいでしょう。

Q.7 治療費は病院によって違いますか？

A.

治療費は、診療報酬と呼ばれる保険医療を点数化したもので定められています。そのため、同じ治療であれば、病院によって治療費が大きく変わることはありません。一方、入院時に個室などを希望した場合の特別療養環境室料（通称 差額ベッド代）は、病院や部屋の種類によってさまざまな金額が設定されています。差額ベッド代は、各病院のホームページで確認することができます。治療費について疑問や不安がある場合は、がん相談支援センターまたは病院の相談窓口にご相談してみるとよいでしょう。

Q.8 治療が始まっていますが、病院を変えることはできますか？

A.

いったん治療が開始されると、治療途中での転院が難しいことが多いです。その理由として例えば、薬物療法は、同じ治療であっても用量や用法、副作用対策に用いる薬剤などが病院ごとに少しずつ異なります。また、どの薬剤を用いるかを定めるため、手術した病院で保管されたがんの組織を用いて、遺伝子変異を詳しく調べることもあります。つまり、今後の治療につなげ、治療経過をみていくために、多くの場合、同じ病院で治療を続ける・完結することが望ましいと言われていています。もちろん引っ越しなどで通えない場合は、診療情報提供書（紹介状）をもとに転院を相談することができます。また、担当医と上手くコミュニケーションがとれない、期待していた医師ではなかったなどの理由で転院を希望する人も少なくありません。医師は大切なパートナーですが、医師だけががん治療を担うわけではありません。担当医との関係ですっきりしないと感じたら、看護師や医療ソーシャルワーカーなどの他の医療者、がん相談支援センターなどに早めに相談してみてください。あなたの最初の「ひと声」が、多職種による支援体制を強化するきっかけとなります。

Q.9 先進医療は、どこの病院で受けられますか？

A.

先進医療は、公的医療保険の対象になるかどうかの評価が必要であると厚生労働大臣が定めた医療技術（評価療養）です。先進医療は限られた病院で限られた病気の限られた状態の方が対象で、基本的には一通りのがんの検査と診断を終えたあとに担当医が考慮する治療となります。がん保険（民間の医療保険）で先進医療特約が付加されているなどの理由で先進医療を希望する方がいますが、このような状況を踏まえて、冷静に判断する必要があります。まずは有効性や安全性が確認され、現時点で最も推奨される治療（標準治療）を検討することが大切です。詳しくは、担当医にご相談ください。

Q.10 どこの病院が治療成績（生存率）がいいか、知る方法はありますか？

A.

病院によってはホームページなどで、その病院で治療した患者さんの生存率を公表していることがあります。ただ、この生存率を治療成績とみなして、病院の優劣をつけることはできません。病院によっては、高齢者や他の重篤な病気や障害を抱える人が多い、早期のがんよりも進行したがんを診療している割合が多いといったことがあり、単純に生存率で治療の優劣を比較することはできません。

V. 病院を選んだあとは（病院のかかり方）

病院を選んだあとは、受診のための準備をすすめていきましょう。このV章では、受診のための準備として、2つのポイントをご紹介します。

● 診療情報提供書（紹介状）・検査結果（データ）の準備／初診の予約

初診の際は、診療情報提供書（紹介状）が求められます。紹介状は、検診センターやクリニックなどでがんを診断した（疑いも含む）医師が作成します。検査をおこなった場合は、CD-ROMなどに保存した検査結果をあわせて持っていきます。紹介状は治療をおこなう病院との連携を図る上で大切なもので、既往歴、病状や検査結果などが記載されています。紹介状や検査結果により、その後の検査や治療がスムーズに進みますので、紹介状をご準備ください。大きな病院（200床以上）では紹介状がない場合、初診時に必要な費用が高くなります（選定療養費、初診で7000円以上で病院により異なります）。病院のウェブサイトにも、初診時の持ち物、受診の流れなどが記載されています。基本的に予約が必要な病院が多く、予約がない場合は当日に診察してもらえないことや待ち時間が長くなることがあります。ウェブサイトを確認し、電話やインターネットなどで初診予約を取っておくとスムーズに進むでしょう。

● 医療者とのよい関係の築き方 ～納得できる治療・療養のために～

がんとは長い付き合いとなるため、医療者とのよい関係を築いていくことが大変重要です。そのためには、がんや治療に関わるだけでなく、今困っていること・心配していることなど自分の思いを伝え、医療者と共有することが大切です。[がん情報サービス「医療者との対話のヒント」](#)では、医療者との関係を築いていくためのヒントが記載されています。もし担当医と上手くいかないなど思ったときは、看護師などの他の医療者やがん相談支援センターに相談してみてください。担当医にどのように伝えたらいいかなど、一緒に考えることができます。

本ガイドで紹介しているウェブページとQRコード

● II. 病院を選ぶポイント

頁	タイトル	サイト	QRコード
P.2	診療の体制	がん情報サービス 「標準治療と診療ガイドライン」	
P.4	その他の注意点	がん情報サービス 「情報を探するときのポイントとは」	

● III. 病院の探し方

頁	タイトル	サイト	QRコード
P.5	ウェブサイト：がん情報サービス「病院を探す」で探す	がん情報サービス 「相談先・病院を探す」	
P.5	都道府県（地域）のがん情報の冊子・ウェブサイトで調べる	がん情報サービス 「地域のがん情報」	
P.6	がんの種類や治療実績で探す	がん情報サービス がん統計 データセンター「院内がん登録 全国集計 結果閲覧システム施設別検索」	
		がん情報サービス 「がん種別の診療数で病院を探してもらう」	
P.7	近くのがん相談支援センターに相談する	がん情報サービス 相談先・病院を探す 「お住まいの地域から探す」	
		がん情報サービス 「がん情報サービスサポートセンターのご案内」	

● IV. よくあるQ&A

頁	タイトル	サイト	QRコード
P.9	Q.3 近くに拠点病院がないときは、どうしたらいいですか？	がん情報サービス がん統計 データセンター「院内がん登録 全国集計 結果閲覧システム施設別検索」	
		がん情報サービス 「セカンドオピニオン」	
P.9	Q.4 希少がんの病院選びのポイントがあれば、教えてください。	国立がん研究センター中央病院 患者サポートセンター 希少がんホットライン	
		東北大学病院 がん診療相談室 希少がんホットライン	
		名古屋大学医学部附属病院 希少がんセンター 希少がんホットライン	
		大阪国際がんセンター 希少がんセンター 希少がんホットライン	
		岡山大学病院 希少がんセンター 希少がんホットライン	
		九州大学病院 希少がんセンター 希少がんホットライン	

● V. 病院を選んだあとは

頁	タイトル	サイト	QRコード
P.12	医療者とのよい関係の築き方 ～納得できる治療・療養のために～	がん情報サービス 「医療者との対話のヒント」	



作成

厚生労働科学研究費補助金

「がん診療連携拠点病院等における情報提供の適切な方法・項目の確立に資する研究(22EA0601)」

